

# 道徳部会 研究の構想

令和3年度～

## I 研究主題

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳科の授業はどうあればよいか。

－主として人との関わりに関すること－

## II 主題設定の趣旨

現代の社会は、グローバル化や情報化の進展、少子高齢化等、社会の急激な変化がもたらす様々な影響により、将来の予測が困難な時代を迎えている。このような社会で生きて働く知識や力をはぐくむために、「何を学ぶか」に加え、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」といった学びの質の転換が求められている。そして、その学びの過程となる「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現するかが課題となっている。

道徳教育においては、「特別の教科 道徳」が令和元年度より全面実施となった。他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指してきた。

令和2年度までは「主として自分自身に関すること」を副題に設定し、「指導する教師が道徳的諸価値をどれだけ深く理解し、授業に臨むか」「生徒が学習課題を自分の課題として捉え、それを多面的・多角的に考えることを通して、人間としての生き方について考えるための手立ては何か」という視点を軸として、授業改善に取り組んできた。3か年の研究から、改めて教師が道徳的諸価値の理解を深めておくことが授業改善につながるということが明らかになった。そこで、次の3年間では「主として人との関わりに関すること」の内容項目に焦点を当て、研究を進めることにした。

本県の生徒の実態を全国学力・学習状況調査の生徒質問紙から見てみると、将来の夢や目標をもっている生徒の割合は、全国平均と比べて依然として低いが、これまでの道徳部会の取組の成果もあってか、平成29年度からの3年間では増加しており、自己肯定感が向上してきていることがうかがえる。このような実態を踏まえ、今後は、自己の生き方を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図るための道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度を養いたいと考え、研修の視点を「主として人との関わりに関すること」に絞ることにした。他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察できるようにしていきたい。

本研究は3か年を1サイクルとして研究を進めている。同じ内容項目で分類整理し、3年間の研究を行うことで、指導する教師の道徳的諸価値の理解を深めることを意図している。そのような深い価値理解を基本として、年次ごとに重点研究内容を設定し、焦点化された研究を推進していきたい。

## III 研究のねらいと内容

### 1 研究のねらい

主として人との関わりに関する道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深める生徒を育てるために、実践的研究を進める。

### 2 研究内容

#### (1) 年次ごとの重点研究内容

2021年度（令和3年度）…道徳的諸価値の理解を基に、道徳的な考えを深める発問の工夫
2022年度（令和4年度）…道徳的諸価値の理解を基に、道徳的な考えを深め合う話し合いの場の工夫
2023年度（令和5年度）…評価との一体化を意識した指導

#### (2) 道徳科の授業を構想するための方策

#### (3) 道徳科の授業に生かす指導方法の工夫

# 道徳部会 令和5年度研究計画

## I 研究主題

主として人との関わりに関する道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳科の授業はどうあればよいか。

－評価との一体化を意識した指導－

## II 主題について

令和3年度から、内容項目の四つの視点のうちの「B主として人との関わりに関すること」を中心として、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める生徒を育てる道徳科の授業について研究を推進している。

令和4年度は「道徳的諸価値の理解を基に、道徳的な考えを深め合う話合いの場の工夫」を副題に設定し研究を進めた。ペアでの対話やグループでの話合いを取り入れたり、座席の配置の工夫や板書を構造的に示したりすることが道徳的な考えを深め合ううえで効果的であることが解明された。また、ティーム・ティーチングを取り入れた授業では、T2が構造的な板書に徹しT1が生徒の発言を傾聴するなど、役割を明確にすることが生徒の多様な感じ方や考え方を引き出せることが明らかになった。そして、人間関係や言語環境を整えたりするなど、一人一人の生徒が安心して意見を述べ、互いに学び合えるような環境づくりが大切であることも改めて確認できた。話合いが表面的・形式的なものにならないように、今後も研究を継続していきたい。

令和5年度は、「評価との一体化を意識した指導」を副題に設定し、生徒の変容を見取るための指導の在り方を研究する。評価に当たっては、道徳的諸価値やそれらに関わる諸事象について、学習活動を通して一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、自分自身との関わりの中で深めているかという点を重視する。そのためにも、学習における一人一人の生徒の姿を把握していくことや、生徒の学習活動に着目した評価を行うことを意識し、評価のための指導とならないよう留意したい。また、教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことで、道徳科の目標に即した授業改善と評価の充実につながる研究を推進していきたい。

## III 研究内容とその視点

内容項目の四つの視点のうち「B主として人との関わりに関すること」を中心とした道徳科の授業において、どのような学習活動を行うことで、自己を人との関わりにおいて捉え、物事を広い視野から多面的・多角的に捉える考えを引き出し、道徳的価値や人間としての生き方についての考えを深める授業となるのかを実践を通して明らかにする。道徳的な深まりのある話合いへと導く授業を行うには、道徳教育及び道徳科の目標を基盤とした全体的な授業構想の在り方が大切な視点となる。また、道徳科の授業に生かす指導方法の工夫も同様に大切な視点となる。このような視点に基づき研究実践を行い、継続的な研究につなげていきたい。

### 1 道徳科の授業を構想するための方策

- (1) 道徳科の特質を生かした学習指導の展開
  - ・道徳科の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を正しく理解した上で、教材を吟味し、道徳的価値を学習指導要領解説と照らし合わせたり、複数の教師で検討したりする。
  - ・特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたずに言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にある。生徒自身が人生の課題や目標に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え、人間としての生き方について理解を深めることができるよう支援する。
  - ・生活体験や教材の感想を発表するだけの活動や道徳的価値の観念的・一面的な理解に終始することがないように、道徳的価値に照らして、自分の生活を振り返り、自らのよさや課題を把握できるような学習を設定する。
  - ・教師が生徒と共に人間の弱さを見つめ、考え、夢や希望等を語り合うような姿勢を大切に
- (2) 教材分析と発問の吟味
  - ・教材を分析し、その結果を図や表等で可視化するなどして研究成果の共有・蓄積に役立てる。

- ・生徒に考える必然性、切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えさせる発問等となるよう工夫する。
- (3) 道徳科の授業に生かす指導方法の工夫
  - ①書く活動の工夫
    - 書く活動を取り入れ、自らの考えを深めたり、整理したりする機会となるようにする。
  - ②動作化や役割演技等の表現活動の工夫
    - 道徳的行為の場面の追体験や、役割演技等の疑似体験的な表現活動を取り入れ、その体験から学んだことや道徳的価値の意義について考えることを大切にする。
  - ③板書を生かす工夫
    - 生徒の考え方、感じ方の多様さを構造的に示す工夫、中心部分を浮き立たせる工夫をする。
  - ④ICTの活用
    - 道徳性を養うための手段の一つとして、効果的なICTの活用を工夫する。

## 2 評価との一体化を意識した指導の充実

- (1) 生徒の学習状況及び成長の様子についての評価の工夫
  - ①生徒の学習状況及び成長の様子についての評価の視点
    - ・道徳的価値の理解を深めているか。
    - ・一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
    - ・自分自身の関わりの中で深めているか。
    - ・これからの自分の生き方に生かそうとしているか。
  - ②生徒の学習状況及び成長の様子を見取るための工夫
    - ・学習の過程や成果等の記録を計画的にファイルに蓄積したものの活用。
    - ・道徳性を養っていく過程での生徒自身のエピソードを累積したものの活用。
    - ・年度当初に自らの課題や目標を捉えるための学習を行ったり、年度途中や年度末に自分自身を振り返ったりする学習活動の工夫。
    - ・ICTを用いた学びの蓄積（デジタルポートフォリオ）の活用。

評価に当たっては、記録物や実演自体を評価するのではなく、学習過程を通じていかに道徳的価値の理解を深めようとしていたか、自分との関わりで考えたかなどの成長の様子を見取るためのものであることに留意する。
- (2) 授業に対する評価
  - ①授業に対する評価の考え方
    - ・道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
    - ・生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問い等、指導の意図に基づいた的確な発問がなされていたか。
    - ・道徳的価値の理解を深めるための指導方法は、生徒の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
    - ・物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせるための教材や教具の活用は適切であったか。
  - ②授業に対する評価方法の工夫
    - ・授業者自らによる評価
      - 記憶や授業中のメモ、板書の写真、録音、録画等によって指導過程や指導方法を振り返る。
    - ・他の教師による評価（重点とする評価項目を設けることで、具体的なフィードバックが得られる）
      - ア 授業を公開し、参観した教師から指摘を受ける。
      - イ ティーム・ティーチングの協力者等から評価を得る。

## IV 研究方法

- 1 研究主題を主体的に受け止め、各学校で日々の実践活動を通して主題の解明に努める。
- 2 各学校での実践資料や成果等を持ち寄り、各郡市、地区ごとに研究を深める。
- 3 各郡市、地区ごとに研究の視点を明確にし、研究授業、研究協議を通して、指導法の実践的研究を進め、主題の解明に生かす。
- 4 各郡市、地区ごとの研究結果を踏まえ、情報を交換し、次年度以降の研究に生かす。